

## ＜祈禱会の聖書から＞

村上定幸

【やつれたエレミヤ】“ゼデキヤ王は、エレミヤを監視の庭に拘留しておくよう命じ、パン屋街から毎日パンを一つ届けさせた。これは都にパンがなくなるまで続いた。エレミヤは監視の庭に留めて置かれた(エレミヤ書 37:21)”が開かれました。それまでのなりゆきを簡単に追ってみるとこうなります。預言者エレミヤは、主に徹底的に立ちかえることを諭すことを続けました。ネブカデネツアルの軍はエルサレムを包囲し、エルサレムは今にも完全に破壊されそうになっていました。ところがエジプト軍が北上してきたため、一時的に撤退したように見えました。エジプトの勢力にとってエルサレムの占領などたいしたことではなかったのかもしれませんが。預言者エレミヤは 7～10 節にあるような預言をします。“カルデア軍が再び来て、この都を攻撃し、占領し火を放つ。主はこう言われる。カルデア軍は必ず我々のもとから立ち去ると言って、自分を欺いてはならない。カルデア軍は決して立ち去らない”というものでした。この敗北の預言に立腹した王はエレミヤを“エレミヤは丸天井のある地下牢に入れられ、長期間そこに留めて置かれた”と 16 節にあるようにします。沼のように水のたまった地下の牢です。そこにとめおかれるうちにエレミヤは衰え、今にも死にそうになったに違いありません。しかし、私たちの学ぶべきことの一つは、エレミヤの生への執着と預言者の生き方を貫くということです。

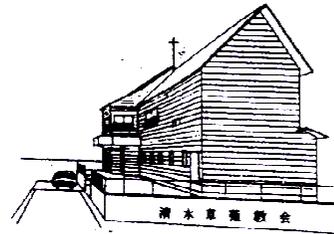
【預言者と死】王はエレミヤを呼び出し“何か預言があったか”とききただします。預言者は預言を繰り返しますが、ただ一つ自らの生に関する条件を出します。“どうか、わたしの願いを受け入れ、書記官ヨナタンの家(丸天上のあった地下のため池)に送り返さないでください。わたしがそこで殺されないように(20 節)”というのがそれです。態度を何一つ明らかに出来なかった王は、彼を監視の庭につなぐことにしました。エレミヤにとっては、暗殺の危険からも身を守る場所だったかもしれませんが。“一日にパン一つ”という条件で彼はしたたかに命を守ったということになります。

【殉教】初代から殉教者を、教会は沢山だしました。時には、殉教主義という言葉さえ見出す程です。エレミヤは殉教せざるを得ない時にはしたかもしれませんが、聖書に出て来る預言者はひたすら生き永らえることに従順です。

【自死という罪】自殺は罪というように教会は教えてきました。自殺者の葬儀に関する規定を持っている教会も沢山あります。しかし、自死を個人のありように解消してしまうことが出来るのかという問いにも、私たちは答えなければならぬ時が来ているように思います。交通事故と同じ程の自殺者を生み出している現代。世の中の罪が彼・彼女に集中してしまったとしか考えられない時があるからです。信仰をめぐることでなく、その何割かの自殺に関する出来事には金銭が関係しているようです。“自殺者募集サイト”などというのが話題になったこともあります。世の中全体が罪に犯されているのです。およそ信仰に関する事柄ではありません。信仰的価値が金銭的価値や虚無にとって代わっているのです。自死を選らばざるを得なかった彼・彼女その人の罪をみる前に、それを恥ずべきことと思う前に、世の中の罪全体が、一人の人をどんな状況に追いやったかを、罪からの救いをいう教会は思うべき時が来ています。

# 週報

2012年 1月 29日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

振替口座 00890-6-214042